

京ヶ瀬地区

(新潟県阿賀野市)

- 計 画 期 間 平成 20 年度～平成 23 年度
- 面 積 930ha
- 交付対象事業費 77 百万円
- 市人口 40,639 人

ポイント “人・まち・自然が輝く 幸福祉都市
阿賀野”の実現

地区概要 道路網の整備改修と民間活力による保健福祉施設整備により、防災性の向上、快適な居住環境及び交流拠点の形成を図る。

※幸福祉とは「幸福」と「福祉」をかけあわせた造語

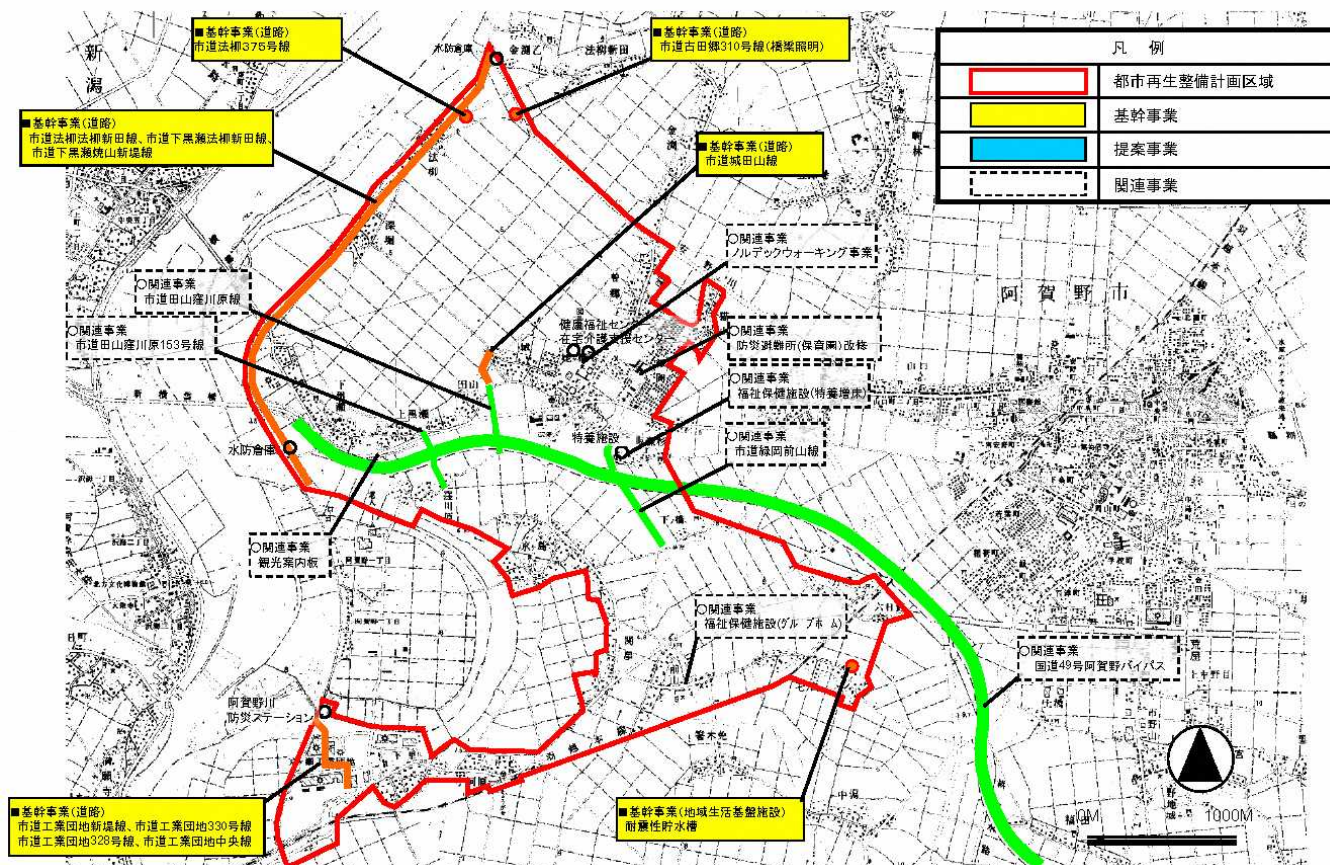
目標 日常生活のなかで、子どもから高齢者までが「幸福」を実感し、家庭や地域で安心して生き生きと生活できる福祉都市の実現を目指す。

指標

市民だれもが住みやすさ、暮らしやすさを実感できるまちづくりとして、福祉、防災、交流及び定住の効果を目標とした。

施設・居住系サービス利用者数	45 人/日	(H19)	→	80 人/日	(H23)
防災・救急満足度	17 %	(H19)	→	18 %	(H23)
整備計画区域内定住人口	4 %	(H19)	→	3 %	(H23)

事業内容 基幹事業（ 77 百万円）→ 道路（6.5m～9.0m、延長 4,370m、橋梁照明 3 基）、耐震性貯水槽（1 箇所）



地区の現況と課題

- 超高齢社会の到来を見据え、介護予防や在宅サービスの充実と社会参加の促進などによって、高齢者が住みなれたところで生きがいに満ちて暮らせる環境を整える必要がある。
- 東西に横断する国道 49 号は、慢性的な渋滞緩和等のため、阿賀野バイパスの早期完成が叫ばれている。
- 市民の日常生活に密着した生活道路は、事故発生の要因となりうる損傷や一部幅員の狭隘箇所があり、緊急車両の進行、災害時の緊急輸送路及び避難路として機能を果たせない恐れがあることから、防災性の向上や快適な居住環境の形成の観点からも一層の整備が必要である。

計画策定プロセス

阿賀野市総合計画

合併後、市では大きな課題である高齢者問題に積極的に対処するため、福祉先進国フィンランドに学び、相互の連携により高齢者対策の「阿賀野スタイル」を確立するため、「阿賀野フィンランド健康福祉センタープロジェクト」と銘打って、総合計画のリーディングプロジェクトに位置づけた。

全国都市再生モデル調査

平成 17 年度に、内閣官房都市再生本部所管の「全国都市再生モデル調査」を活用した「道の駅を核としたフィンランド型福祉のまちづくりモデル検討調査」を実施し、「自ら考え自ら行動する」という地域の創意工夫で福祉の道の駅の基本計画を策定した。

市の総人口と高齢者数の推計
～市介護保険事業計画から～

	平成17年4月	平成26年度
総人口	48,491人	46,088人
高齢者数	11,509人	12,454人
高齢化率	23.7%	27.0%
要介護認定者数	1,880人	2,552人
要介護認定率	16.2%	20.5%



▲ 渋滞する国道 49 号



▲ 福祉先進国フィンランドに学ぶ



▲ 自立支援を理念とする介護予防